

# 目 次

「Ctrl」キーを押しながら目次欄（下線部分）をクリックすると、  
該当ページまで移動します。

<u>出席委員</u> . . . . .	2
<u>討論及び採決</u> . . . . .	4
<u>特別委員会報告書の作成について</u> . . . . .	12

※本会議録で使用している漢字は、汎用性等を考慮し、「JIS第1水準漢字」を使用しています。  
このため、人名や地名などの固有名詞等において、実際の漢字とは異なる標記となっている場  
合があります。

平成28年9月決算審査特別委員会（9月16日金曜日分）

平成28年 利府町議会決算審査特別委員会会議録（第5号）

---

平成28年9月16日（金曜日）

---

出席議員（1名）

議長 櫻井正人君

---

出席委員（17名）

委員長 遠藤紀子君

副委員長 吉岡伸二郎君

委員 鈴木晴子君

後藤哲君

安田知己君

土村秀俊君

鈴木忠美君

永野涉君

渡辺幹雄君

羽川喜富君

西澤文久君

小淵洋一郎君

木村範雄君

高久時男君

吉田裕哉君

及川智善君

郷右近隆夫君

---

欠席委員（なし）

---

説明のため出席した者

町長 鈴木勝雄君

副町長 伊藤三男君

総務課長 折笠浩幸君

政策課長 小幡純一君

財務課長 高橋三喜夫君

税務課長 高橋徳光君

収納対策室長 櫻井浩明君

町民課長 庄司幾子君

生活安全課長 村田政文君

平成28年9月決算審査特別委員会（9月16日金曜日分）

保健福祉課長	菅井百合子君
子ども支援課長	櫻井やえ子君
都市整備課長	櫻井昭彦君
産業振興課長 兼農業委員会事務局長	伊藤智君
上下水道課長	大友政一君
震災復興推進室長	阿部義弘君
会計管理者 兼会計室長	阿部智子君
教育長	本明陽一君
教育次長	松尾隆治君
教育総務課長	菅野勇君
生涯学習課長	石川洋志君
代表監査委員	宮城正義君
監査委員事務局長兼 選挙管理委員会事務局長	鈴木正敏君

---

議会事務局職員出席者

事務局長	鈴木則昭君
主幹	櫻井涉君
主任主査	利玲子君

平成28年9月決算審査特別委員会（9月16日金曜日分）

午前9時33分 開 議

○委員長（遠藤紀子君） おはようございます。

これより決算審査特別委員会を再開します。

ただいまの出席委員は17名です。

暑い方は、上着を脱ぐことを許可します。

これより議事に入ります。

本特別委員会に付託された平成27年度利府町各種会計決算について、討論、採決を行います。

初めに、認定第1号 平成27年度利府町一般会計歳入歳出決算の認定について、討論、採決を行います。討論ありませんか。

初めに反対討論。6番 木村委員。

○木村範雄委員 認定第1号 平成27年度利府町一般会計歳入歳出決算の認定について反対の討論を行います。

平成27年度一般会計決算は、歳入総額156億1,373万9,009円、歳出総額134億6,731万6,950円、前年度に比べて歳入で23億6,000万円、歳出で10億5,000万円の増額でした。当初予算と比べれば歳入で11億5,600万円、歳出で33億200万円の減額です。このうち、復興関係の復興推進復興整備費は16億8,500万円、翌年度繰越額は27億8,100万円ということを考えれば、次年度予算を確保していると言えるかもしれませんが、当初と比べて進捗状況が思いどおり進んでいないということを指摘しておきたいと思います。

利府町は、施政方針で3つの施策目標を主要施策と位置づけ取り組むとともに、総合計画に掲げる「ひと・ところ・まち しあわせ共創」のまちづくりの実現に向けた事業を着実に推進しますと述べていました。そのためにも国や県への要望や提案を行い、利府町の復興計画に寄り添った財政支援を行わせることが必要だと述べてきました。

それでは、平成27年度決算を施政方針に基づき検討が必要なもの、おくられているもの等、主な点について述べさせていただきます。

1点目は、震災復興の着実な前進と安全・安心なまちづくりです。

ここでは、津波対策としての浜田地区の防潮堤、須賀地区の水門整備事業、避難路や避難場所整備が挙げられていました。

浜田地区の防潮堤の設計委託に着手できましたが、工事の着手にまでは至っておりません。須賀地区の水門整備は前端のしゅんせつには取りかかりましたが、本体工事にはまだ取りかかれています。

## 平成28年9月決算審査特別委員会（9月16日金曜日分）

全体的には、避難路整備や避難場所の整備、須賀地区の雨水強制排水施設の整備など、進んでいることは認めますが、震災復興を優先であわせて整備すべきである浜田・須賀地区の住み続けられる地域づくりを進める施策が進められていないことを指摘しておきます。

2点目は、子ども子育て支援の充実と教育環境の整備についてであります。

ここでは、待機児童解消のための保育所整備、利府小学校の現地建てかえ、小中学校の耐震化工事を行うことが挙げられていました。

いずれも大規模工事が必要であり、関係する小学生や待機児童にとっては、本体事業とあわせた、一人一人に合わせた対応が必要であります。学べる環境を悪化させることなく、仮設でも落ち着いて学習できる学びやの整備と事故が起きない現場管理を求めるものであります。

また、待機児童がいるということは、働きたくても働けない保護者が生まれるということでもあります。定員のプラス19%枠を確保するためにも、保育所の確保は喫緊の課題であります。

特に、公立保育所を運営する町としては、正規保育所の加配による対応を望むものであります。

3点目、持続可能な地域社会づくりについてであります。

ここでは、新中道土地区画整理事業への支援、新太子堂地区の市街地の形成、文化複合施設、町営墓地の整備が挙げられていました。おくれぎみではありますが、おのおのの事業は推進されています。新中道土地区画整理事業では、早急に仙台松島線の渋滞緩和策の対応を行わなければならないと思います。現計画では、新たな大規模渋滞を生み出してしまうおそれが内在しています。新太子堂地区の市街地の形成でも、同様の課題を解消しなければなりません。文化複合施設は2段階での整備が報告されています。財源をどうするかという課題もありますが、起債による整備は利用した人が支払うという考え方もできます。利府中の敷地の拡大や当該地区の再整備ということを考えれば、国や県からの支援を受けるとともに、利用団体からの協力も得ながら、大ホールを含めた速やかな整備を行うことが求められています。個別の事業は進められていますが、あわせて整備すべき課題を解決しなければ住民が納得できる事業にはなりません。あわせて幹線道路の整備も進めていかなければなりません。根本的な利府松島線、塩釜吉岡線、国道45号の渋滞対策と道路整備が進められていないことを指摘しておきます。

4点目は、町民サービスの向上と健全な財政運営の確保についてであります。

ここでは、組織の再編、社会保障・税番号制度の導入、プレミアム商品券の販売や福祉商品券の支給が挙げられていました。プレミアム商品券や福祉商品券は準備した商品券を配布できたものの、希望する人に速やかに配布できる体制をつくり上げたいと思います。また、社会保

## 平成28年9月決算審査特別委員会（9月16日金曜日分）

障・税番号制度は住民にとって何がメリットなのかが示されていません。身分証明書のかわりになるとかコンビニで住民票を取得できるとか宣伝されていますが、反対に個人番号の運用を悪用されることによる心配が個人番号カードの発行枚数1,276枚にもあらわれています。

国費とはいえ費用対効果に反する制度をつくるべきではなく、運用を拡大させない取り組みが必要でした。

最後に、平成27年度一般会計当初決算の反対討論で、基礎自治体である利府町の最大の責務は、住民の安全と安心、住民の福祉の増進を最大限に図り、住んでよかった、住みたい利府町にするために町独自の奨学資金の創設、町民が安心して介護が受けられるよう保険料の引き下げや介護サービスの給付などの支援策の強化、民間バスへの一刻も早い100円バスの導入、葉山地区から東塩釜駅、東北本線への町民バスの導入、危険な交差点への信号機の設置など、住民の暮らしの要望や要求への行政支援を求めてきました。住民要望は多岐にわたっており、一気に解決できるものではありませんが、計画を立て一つずつ解決していく姿勢が求められています。町の取り組みがもう一步進めていかなければならないことを述べて討論とします。

○委員長（遠藤紀子君） 次に、賛成討論。8番 吉岡委員。

○吉岡伸二郎委員 それでは、認定第1号 平成27年度利府町一般会計歳入歳出決算に対し、賛成の立場から討論いたします。

歳入決算額につきましては、復興事業の本格化に伴い東日本大震災復興交付金基金からの繰入金が増加したことにより、前年度と比較して23億6,206万円増の156億1,374万円となりました。

一方、歳出決算額も、歳入同様に復興事業にかかわる普通建設事業費や繰出金の増により、前年度と比較して10億5,736万円増の134億6,732万円となり、歳入歳出差引額が21億4,642万円、翌年度へ繰り越すべき財源16億5,356万円を除き4億9,286万円が実質収支額となり、そのうち3億5,000万円を財政調整基金に積み立てました。

昨年度に引き続き高い水準での決算額となっておりますが、これは東日本大震災に伴う復興事業に要した費用が含まれているからであり、先月の11日で震災の発生から5年半が経過しましたが、被害の大きさを改めて痛感するとともに、一日も早い復興を願うものであります。

次に、基金残高につきましても、昨年度に引き続き東日本大震災の影響が大きいものとなっております。東日本大震災復興交付金基金からの繰り入れなどによりまして4億1,276万円減の60億6,154万円となっております。次年度以降のさらなる復興事業の加速化に向け、大いに期待するところであります。

## 平成28年9月決算審査特別委員会（9月16日金曜日分）

なお、財政調整基金につきましては、財源不足を補うため1億2,934万円の繰り入れを実施しておりますが、昨今の地方財政を取り巻く厳しい財政状況の中ではいたし方がないものと考えているものであります。約21億7,350万円の残高を確保し、適正な財政運営ができたものと評価するものであります。

平成27年度における行政運営は、通常の行政運営に加え、震災の復興事業が本格化する中、町長を初め職員が一丸となって住民サービスの向上と的確な対応に当たられたことは、大いに評価できます。

次に、平成27年度の施政方針に示された4つの重点施策について検証してまいります。

初めに、震災復興の着実な推進と安全・安心なまちづくりであります。

まず、復興事業については予定している各種事業に着手しており、津波対策として実施する防潮堤、水門整備事業や地盤沈下に伴う排水対策として実施するかさ上げ事業や排水機能強化事業など、地域住民が安全で安心して暮らすことのできる環境整備として復興へ向けた取り組みを強化するとともに、一日も早く震災前の日常を取り戻せるよう、引き続きの努力を望むものであります。

また、かねてより整備を進めていた浜田地区避難施設と防災備蓄倉庫の整備が完了したことは、災害時における地域の防災拠点として効果が期待できるものであります。そのほかにも、地域において災害時に中心的役割を担う地域防災リーダーの養成や大規模災害に備えた防災備蓄事業を初めとして各種防災対策事業を実施しており、安全・安心なまちづくりの実現に向けた取り組みに努めていることも評価するものであります。

2点目は、子ども子育て支援の充実と教育環境の整備であります。

少子高齢化社会に対応した住みよいまちづくりを実現するため、子育て支援を最重要課題と位置づけ、第3子以降の保育料の無料化や子ども医療費助成等、さまざまな施策を継続的に実施していることや、児童クラブの対象年齢引き上げに合わせた環境整備として、利府三小児童クラブ建設事業を実施するなど、ソフト・ハード両面での事業実施は子育て支援の充実につながるものとして大いに評価できます。

また、教育環境整備については、利府小学校建てかえ事業への着手や小中学校9校での屋内運動場の耐震化工事を実施するなど、未来を担う子供たちが伸び伸びと意欲的に学べる環境づくりに寄与したものと考えます。

3点目は、持続可能な地域社会づくりであります。

人口減少、少子高齢化の進展など地方自治体を取り巻く社会情勢が刻々と変化しており、国

## 平成28年9月決算審査特別委員会（9月16日金曜日分）

の重点施策である地方創生による自治体間競争の激化が予想されております。このような状況を踏まえ、社会情勢の変化に的確に対応し、魅力のある持続可能なまちづくりを推進するために、将来の町の行財政運営の指針となる総合計画の見直しや総合戦略の策定を行ったことは大いに評価できます。そのほかにも、県道仙台松島線の慢性的な交通渋滞の解消に向けた町道の整備を初めとして、町民の悲願である文化複合施設整備事業や町営墓地整備事業の整備も進められており、持続可能な地域づくりに努めております。

最後に、4点目の町民サービスの向上と健全な財政運営の確保であります。

町民サービスの向上に向け、町民の皆さんがよりわかりやすい効率的な行政運営を推進するため、平成27年4月から組織機構の再編を行っております。これは、社会経済情勢の変化やさまざまな制度改正によって大きく変化している状況に対応したものととして大いに評価するとともに、職員がますます職務に精励することを期待するものであります。そのほかにも、広告事業による新たな財源の確保や健康診査の対象年齢の拡充、さらには経済対策として実施したプレミアム商品券事業など、町民サービスの向上と健全な財政運営の確保の取り組みに対して評価するものです。

最後に、震災からの真の復興を成し遂げ、さらに発展するまちづくりを推進するとともに、総合計画の基本理念に掲げる「ひと・こころ・まち しあわせ共創のステージ」の実現に向け邁進するよう強く要望し、賛成の討論といたします。

○委員長（遠藤紀子君） ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（遠藤紀子君） 討論がありませんので、これで討論を終わります。

これより起立により採決を行います。

認定第1号 平成27年度利府町一般会計歳入歳出決算の認定については原案のとおり認定することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○委員長（遠藤紀子君） 起立多数です。よって、本件は原案のとおり認定するものと決定いたしました。

次に、認定第2号 平成27年度利府町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について、討論、採決を行います。

討論はありませんか。最初に反対討論。5番 安田委員。

○安田知己委員 認定第2号 平成27年度利府町国民健康保険特別会計歳入歳出決算に対し討論



## 平成28年9月決算審査特別委員会（9月16日金曜日分）

を行います。

平成27年度国保会計の歳入総出額は34億3,219万円、歳出総額は33億3,289万円でした。

この国保会計が行っている事業は、国民全てが公的医療保険に加入する国民皆保険制度を維持しており、町民の健康と福祉の増進に大きく寄与している重要な事業を町が行っていることについては認めるものであります。国保会計につきましては、これまでの予算や決算の討論の中で常に述べていますが、町の国保財政が年々厳しくなっている要因は、長引く不況の影響や年金支給額の削減で国保加入者の負担能力が弱まってきていること、そしてもう一つ大きな要因は、国が地方自治体の国保会計に対して大幅な予算削減を行ってきたことにあります。このこと自体は町に責任はなく、国が地方自治体の国保財政の支援を強める必要があります。そして、町としても国に対して国保への補助率を以前の状況に戻すよう県や市町村と連携して声を上げていくことを要望しておきます。

さて、利府町の国保状況ですが、この間、数度にわたって国保税の引き下げがあり、国保税額の県内自治体比較では下位のほうに位置しています。しかし、国保に加入している町民からは国保税の負担が重いという声が少なくありません。その背景としては、この国保事業は他の医療保険制度とは違い、保険加入者の所得が比較的少ない人が多いということが特徴かと思えます。今後は加入者の収入実態や国保税の滞納状況などを踏まえ、加入者が無理なく支払うことができる税体系の検討も必要だと思えます。

最後に、短期保険証の発行は、3カ月証が97世帯、6カ月証が24世帯に発行されており、資格証明書の発行も4世帯という状況でした。発行件数は減ってきていますが、短期保険証や資格証明書が発行されている加入者は、さまざまな理由で医療の利用が受けにくくなる可能性があります。これらの発行につきましては、速やかに取りやめていくことを述べ、平成27年度利府町国民健康保険特別会計に対する反対討論といたします。

○委員長（遠藤紀子君） 次に、賛成討論。9番 高久委員。

○高久時男委員 それでは、認定第2号 平成27年度利府町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について、賛成の立場で討論いたします。

平成27年度の歳入は、約34億3,200万円、歳出は約33億3,200万円でありました。歳入全体の収入率は94.1%で平成26年度より1.5%を上回りましたが、直接町民が負担する健康保険税は収入済額構成比で19.6%、約6億7,200万円で、平成26年度より金額で2,100万円、率で2.5%減っております。

歳出では、保険給付費が約19億9,200万円で、支出済額構成比においては平成26年度より率で

平成28年9月決算審査特別委員会（9月16日金曜日分）

5%の減となっていますが、金額では9,500万円ふえており、依然として増加傾向にあります。医療費の削減が大きな課題ではありますが、本町においては特定健診等の受診率は県内でもトップクラスであり、各種保健事業の実施等により医療費の適正化に努めていることがうかがえます。

国民健康保険特別会計の規模が年々大きくなる中で、健康保険税収入は毎年減ってきております。このような厳しい状況の中でも本会計の決算は、町民負担の公平性を保ち適正に執行されたと考え賛成いたします。

○委員長（遠藤紀子君） ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（遠藤紀子君） 討論がありませんので、これで討論を終わります。

これより起立により採決を行います。

認定第2号 平成27年度利府町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定については原案のとおり認定することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○委員長（遠藤紀子君） 起立多数です。よって、本件は原案のとおり認定するものと決定いたしました。

次に、認定第3号 平成27年度利府町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について、討論、採決を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（遠藤紀子君） 討論がありませんので、これで討論を終わります。

これより採決を行います。

認定第3号 平成27年度利府町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定については原案のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（遠藤紀子君） 異議なしと認めます。したがって、本件は原案のとおり認定するものと決定いたしました。

次に、認定第4号 平成27年度利府町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について、討論、採決を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（遠藤紀子君） 討論がありませんので、これで討論を終わります。

これより採決を行います。

認定第4号 平成27年度利府町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定については原案のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（遠藤紀子君） 異議なしと認めます。したがって、本件は原案のとおり認定するものと決定しました。

次に、認定第5号 平成27年度利府町下水道特別会計歳入歳出決算の認定について、討論、採決を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（遠藤紀子君） 討論がありませんので、これで討論を終わります。

これより採決を行います。

認定第5号 平成27年度利府町下水道特別会計歳入歳出決算の認定については原案のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（遠藤紀子君） 異議なしと認めます。したがって、本件は原案のとおり認定するものと決定しました。

次に、認定第6号 平成27年度利府町町営墓地特別会計歳入歳出決算の認定について、討論、採決を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（遠藤紀子君） 討論がありませんので、これで討論を終わります。

これより採決を行います。

認定第6号 平成27年度利府町町営墓地特別会計歳入歳出決算の認定については原案のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（遠藤紀子君） 異議なしと認めます。したがって、本件は原案のとおり認定するものと決定しました。

平成28年9月決算審査特別委員会（9月16日金曜日分）

次に、認定第7号 平成27年度利府町水道事業会計決算の認定について、討論、採決を行います。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（遠藤紀子君） 討論がありませんので、これで討論を終わります。

これより採決を行います。

認定第7号 平成27年度利府町水道事業会計決算の認定については原案のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（遠藤紀子君） 異議なしと認めます。したがって、本件は原案のとおり認定するものと決定しました。

以上をもって、本委員会に付託された平成27年度利府町各種会計決算の審査は全部終了しました。

なお、**委員会報告書の作成**については、私に一任願います。

これで利府町議会決算審査特別委員会を閉会します。

どうも御苦労さまでした。

午前9時58分 閉 会

---

上記会議の経過は、事務局長鈴木則昭が記載したものであるが、その内容に相違がないことを証するため署名する。

平成28年9月16日

委 員 長